

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 2 〕 看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成  
( 3 ) チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持ったメディカルスタッフの養成  
生体機能回復支援領域 ( 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 )

		整理番号	23
申請担当大学名 ( 連携大学名 )	大阪府立大学		
事業名	在宅ケアを支えるリハビリ専門職の養成		
事業責任者	総合リハビリテーション学研究科長・学部長・学類長 教授 高畑 進一		
<b>事業の概要</b>			
<p>在宅ケアで活躍できる理学療法士及び作業療法士の人材育成を目指し、実習指導者と学士課程の学生に向けた2つの教育プログラムを実施する。実習指導者教育プログラムは、本学研究科に遠隔学習を可能とする環境を整えた「地域リハビリテーション学」を学ぶコース(履修証明プログラム)を開設し、病院勤務の指導者には病院から在宅ケアへ円滑に患者をつなぐための制度理解を、訪問リハ等在宅支援に関わる指導者には医療とのネットワーク構築を、それぞれ促すような人材育成を目指す。学士課程教育プログラムは、在宅リハビリテーションの講義と実習から構成し、指導者向けプログラム修了者が関わりながら地域医療の在り方を修得させる。在宅ケアを修得した新卒者と、医療と在宅ケアの連携体制づくりの概念を学んだ臨床家を輩出するプログラム完成後は、患者と医療情報が円滑に循環する医療・在宅ケア大阪モデル(仮称)を試行し、事業の波及効果をねらう。</p>			
<p>推進委員会からの主なコメント : 優れた点等、 : 充実を要する点等</p>			
<p>課題の地域包括ケアは社会的にニーズの高い事項という点で評価できる。 超高齢社会の在宅支援に対する当該概要、目標等は、本事業の趣旨とマッチしており意義がある。 在宅患者に対するリハビリテーションは今後ますます重要になる領域であり、この点に着目したことは評価できる。また、学士課程学生と臨床指導者を対象としたことも実効性のあるものとする。達成目標、評価指標が明快な点が非常に優れている。 プログラム対象者のうち臨床実習指導者が100名超と多数であり、事業の成果・効果が期待できる。病院、訪問リハ等との連携実践、地域リハ履修証明プログラムに具体性(医療・在宅ケア大阪モデルなど)があり、また遠隔学習環境整備にも配慮されている。 教育の達成率が評価指標となっているが、包括ケア介入のアウトカムの評価についても示されることを期待したい。 医療機関、看護ステーション等と大学(当該関係者)との連携責任と役割をより明確にしていくことが望ましい。 実際に在宅に関わる医師、看護師がどの程度担当者に加わっているのか、またどのような役割を担うのかをより明らかにされることが望ましい。</p>			